

サポーター体験記 306

## 災害時に重要な水の確保 いざという時の備え「防災井戸」とは？

取材日 令和6年2月21日 更新日 令和6年3月11日

お役立ち情報

1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、長引く断水が大きな問題となりました。災害に備えて、練馬区では水をどのように確保しているのか、私たちはどのように備えればいいのか。区内に設置されている防災井戸の観点から、区の所管課にお話を聞きました。



練馬区 危機管理室 防災計画課／健康部 生活衛生課

※以下、文中敬称略。

防災計画課 防災施設係長／三好 孝宏（みよし たかひろ）さん

防災計画課 防災施設係／榎本 大地（えのもと だいち）さん

生活衛生課 環境衛生監視担当係長／角田 直人（かくた なおと）さん

住所：練馬区豊玉北6-12-1

## 「防災井戸」とは？



生活衛生課環境衛生監視担当係長の角田さん（左）、防災計画課防災施設係の榎本さん（中央）と、同係長の三好さん（右）

ー防災井戸とはどのようなものなのですか？

三好「練馬区には『防災井戸』『学校防災井戸』『ミニ防災井戸』という3種類の防災用の井戸があります。防災井戸は深さ100メートル程度の深井戸（ふかいど）で、基本的に飲料用に使用します。対して学校防災井戸とミニ防災井戸は深さが8～30メートル程度の浅井戸（あさいど）で、初期消火用水や生活用水として活用するものです。井戸が深い方が地表の影響を受けづらいので水質が安定していると言われています」



防災井戸（中新井公園）。水質検査を定期的を実施しており、停電時でも使用できるよう発電機が併設されています



学校防災井戸（豊玉第二小学校）。深さ25メートル程度の浅井戸で、学校に設置されている発電機で電動ポンプを稼働させ、水を汲み上げます





ミニ防災井戸（個人宅）。深さ8メートル程度の浅井戸で、停電時でも使用できるよう手動ポンプが設置されています



区が各戸に配布している練馬区防災地図には、防災井戸とミニ防災井戸がマッピングされています。ホームページでも閲覧可

## 防災井戸と学校防災井戸を実際に見学してきました！

百間は一見に如かず。さっそく中新井公園（豊玉上2-18-1）の防災井戸を見学してきました。



この防災井戸は地下約200メートルの深さから水を汲み上げているとのこと。





まずは発電機を起動させ(左)、井戸水をポンプで汲み上げ、消火栓(右)から水を出します。



勢いよく水が出てきました！



隣接する豊玉第二小学校の学校防災井戸も見学しました。隣にある白い電動ポンプで井戸水を汲み上げます。普段は点検も兼ねて花壇の水やりなどに使用しているそうです。

## 練馬区の防災井戸の整備は昭和50年代から

――練馬区が防災井戸の取り組みを始めたのはいつからですか？

三好「昭和50年代です。当時はまだ井戸水で生活している世帯もあり、災害時の飲料水の確保のために民間専用水道組合などの協力により、協定を締結したのが始まりです」

角田「今ほど水道が普及しておらず、一部世帯では日常の飲料水として井戸水を活用していました」

――現在、練馬区内には防災井戸が何か所設置されているのですか？

三好「防災井戸は区内の公園や民間の企業など22か所に設置されており、学校防災井戸は区立小中学校98校全てに整備されています。ミニ防災井戸は区内約500か所に点在しています」

――ミニ防災井戸はいつ頃から導入されたのでしょうか？



三好「昭和57年にはミニ防災井戸の指定が始まっています。練馬は農家さんが多く、もともと各家庭の井戸の所有率が高いこともあって、災害時に活用できないかという動きがあったようです」

## ミニ防災井戸の仕組みは？

――ミニ防災井戸はどのように認定されていますか？

三好「新しく井戸を掘るのではなく、すでに所有されている井戸をミニ防災井戸として指定します。停電時に使用できるように手動ポンプを取り付けるため、手動でも汲み上げ可能な8メートルくらいまでの浅井戸であること、消防ポンプを併設できるスペースがあること、災害時に地域の人が使用できるよう設置されていることなど、条件が合えば協定を結び、手動ポンプと目印の看板を設置します」

ミニ防災井戸の協定の条件詳細など（練馬区HP）



街中でみられるミニ防災井戸の看板

――ミニ防災井戸の条件に当てはまれば、どんな井戸でも認定されるのでしょうか？

三好「全てが認定されるというわけではありません。現場を視察し、ミニ防災井戸として適しているか判断してから認定し、協定を結びます。また、防災井戸が近隣に複数ある地域より、なるべく防災井戸の少ない地域に新設できるようバランスを考えながら指定しています」

――ミニ防災井戸は区内に約500か所あるとのことですが、とても多いと感じました。

三好「私も多いと思っています。善意でご協力いただいております。特に大きな震災の後などは申請が増える傾向にあります。区内各所にありますので、注意して歩いてみると見つけられると思います」

――メンテナンスはどのように行っていますか？

三好「ポンプの設置や修理など、いざという時に使えるよう、定期的な保守点検は欠かせません。年間で100件程度のミニ防災井戸の保守点検を行いますので、5年に1回は点検している状況です。メンテナンス費は全て区が負担しています」

## 水を確保する対策はいろいろ

――実際に防災井戸を使ったことはあるのでしょうか？

三好「防災井戸の整備を始めた時からこれまでの間、実際の災害時に使用したことはありません。学校防災井戸は草花の水やりで使用したり、ミニ防災井戸は個人で使用したりしていますが、区として災害時に使用したという記録はありません」

――具体的にどのような状況で防災井戸を使用するのでしょうか？

三好「大きな災害が発生し、実際に断水が起こった場合、防災井戸を使う前には東京都が設置している『応急給水槽・給水所』を利用して給水を行います。また、避難拠点となる小中学校には応急給水栓があり、スタンドパイプを差し込んで飲料水を確保することができます。さらに、消火栓から給水可能なスタンドパイプもあります。防災井戸の利用は最後の手段として使用します」



豊玉第二小学校に設置されている応急給水栓（左）、スタンドパイプ（右）

三好「大きな地震後には井戸水に不純物が混ざるといふ点も近年指摘されています。井戸水の使用前には水質検査が行われますが、結果が出るまでに時間がかかります。そこで、災害時に井戸水の水質検査をしなくても即時に飲み水として提供できるよう、様々な不純物を取り除ける高性能なろ過器の導入を検討しているところです」

## 大地震が発生したらどうする？

――災害発生時、練馬区内で断水する確率はどれくらいだと想定されていますか？

榎本「東京都が算出したマグニチュード7.3の多摩東部直下地震の被害想定では、練馬区の上水道の断水率は14.4%です。これは、練馬区で震度6強～6弱を想定した場合、14.4%のエリアが断水することを意味します。23区内全体の断水率は28.6%、東京都全体の断水率は25.8%とされているため、練馬区の断水率は比較的低いと言えます。しかし、14.4%のエリアにどれだけの人口が集まっているかわかりませんので、単純に楽観はできません」

三好「断水時の対策の1つとして、防災井戸やミニ防災井戸をよりバランスよく配置できるよう取り組んでいます。また、上下水道の断水や停電が起きてトイレは使えなくなるので、災害時のトイレ問題も非常に深刻な課題です」

――私の住むマンションでもマンホールトイレを共同購入しました。

三好「それは素晴らしいですね。来年度以降、練馬区でも『マンション防災』に力を入れていこうと考えています。高層マンションには多くの人が住んでいるため、緊急時には避難所が満員になってしまうことがあります。マンションに限らず、在宅避難できる環境であればそれに越したことはありません」

榎本「マンションや自宅での備蓄も防災に欠かせない要素です。常に一定量の食料・飲料を家に備蓄しておく『ローリングストック』を日頃から行い、各家庭で災害に備えておくことが大切です」

※在宅避難や災害時のトイレについては過去のサポーター体験記でも取り上げています。

- [No.250「災害を平常時に体験？！コロナ禍の今こそ大切にしたい、在宅避難について学ぶ」](#)
- [No.289「災害時の“トイレの備蓄”はできていますか？」](#)

## 普段から防災の備えを

――災害に備えて、練馬区が様々な方法で準備していることがわかりました。最後に、読者の方へメッセージをお願いします。

三好「令和6年能登半島地震の影響もあり、井戸の相談など問い合わせが増え、区民の皆様断水への不安が大きくなっていると感じます。防災井戸に限らず、区の方でも水の備えを進めていますが、それでも何が起きるかわからないのが災害です。『飲料水は1人1日3リットル』、『簡易トイレは1人1日5回』をそれぞれ目安に備蓄を、と言われてます。ただし、これはあくまで一般的な目安であり、備蓄は在宅避難を可能とする対策の1つに過ぎません。各家庭の状況に応じて備蓄し、普段からローリングストックを行うなど、ぜひ自分事と捉えて備えてください」

角田「飲み水のストックは多すぎて困るということはありません。消費期限が切れても生活用水として使えます。保健所としては、地震の際の水質変化が心配なので、各家庭でできるだけたくさん備蓄しておくことが重要です」

榎本「すべてのミニ防災井戸の協定を結ぶわけではないのですが、自分の家の井戸を地域の防災に役立てたいと考えてくださる方が増えているのだと思います。そうした個々の自助や共助が大切です」



防災について熱心に質問するサポーター

昭和50年代から取り組んできた防災井戸。1度も使われたことはなくても、いざという時にちゃんと使えるように日々管理されていることがわかりました。危機管理室の皆さんは、震度4以上の地震や気象警報が発生すると、昼夜問わず区役所に出動すること。深い感謝を感じると共に、自身の防災や備蓄を見直すきっかけになりました。防災は公助・共助に加えて「自助」も絶対に欠かせません。できることから始めましょう！

## サポーターの取材後記

### トマト

今年は、1月1日に起きた令和6年能登半島地震で始まりました。毎日地震で壊れた家や断水のニュースを見て、今さらながら地震の怖さを思い知る日々です。ふとしたことから見つけたミニ防災井戸。それをきっかけに練馬区の防災井戸を取材させていただきましたが、3種類の防災井戸を備え、災害時いつでも使えるようにしているとのこと。実際の災害はまだ使われていないそうですが、備えがあれば安心です。今回の取材では、防災談義で盛り上がり、実際に地下200メートルの防災井戸から水が出るのを見学させてもらったりして、防災について身近に考えることができた有意義な取材でした。

### splash

日本は世界有数の地震国です。マグニチュード6以上の地震のうち、約2割が日本の周辺で発生しているといわれています。明日、大地震が発生しても何ら不思議はありません。「災害時の被害を最小限に抑えるためには、自分の命は自分で守る『自助』、地域の力を集結する『共助』の意識のもと、行動していただくことが何より大切です」とは、三好係長の談です。いつか来る大地震に対し、練馬区はよく準備されているなという感想を持ちました。特に震度6強～6弱の地震がきても練馬区内の想定断水率は14.4%と、23区内全体の28.6%の半分とは、水道施設の耐震化が進んでいる証左であります。しかし、公助に頼るだけでなく、あらためて自助、共助の認識を深めました。飲料水：1人×1日×3リットル×7日分、簡易トイレ：1人×1日×5回×7日分、食料：1人×1日×3回×7日分、特に長期保存できる缶詰・レトルト食品・米・高野豆腐を更新することは、自分の家族あるいは自らの命を守る実践的な対応としての必要十分条件だと思います。大きな地震が起きた際には臨機応変な対応が必要で、「こうすれば必ず安全」と言い切れる対策はないと思われます。しかし、様々なシミュレーションをあらかじめしておくことで、実際に地震が起こった際に冷静な判断が可能になります。いざというときに慌てないためにも、正しい知識を知り、家族と一緒に話し合っておきたいものです。備えあれば憂いなし。まさにこれは、来る大地震に対する向き合い方だと思います。

### 野面

令和6年能登半島地震は防災の大切さをあらためて私たちに思い起こさせた。そんな折、防災井戸について取材できたのはタイムリーで、他人事ではないと頭ではわかっているつもりでの防災意識が具体的にアップデートされることになった。取材は練馬区の防災井戸のカテゴリを解説いただくことから始まった。被災後の生活が始まると電気・ガスと並んで水がライフラインの筆頭に上げられるのだから、断水時の防災井戸への期待は高まった。しかし、飲める井戸水と飲めない井戸水があり、井戸も決して万能ではないことを知った。実際に見学させていただいた中新井公園の防災井戸。区内に22か所ある飲める水が出る防災井戸の1つだが、フェンスの鍵を開け、自家発電機起動、電動ポンプ操作、出水管を開くまでの操作、まして普段の水質検査や維持管理など、むかし近所にあった手動ポンプの井戸とは規模が違う。まさに行政の専門部署が管理するに相応しいと感じた。区民の善意による登録500か所のミニ防災井戸、区内98の全小中学校にある学校防災井戸と位置付けが異なれば管理も異なり、自分の身に引き寄せて想像しても、被災の最中で実際にどう使うことになるのか正直分からないが、区が災害時にどのような体制をとっているかを知ることができた。取材を終えて、これは防災訓練だったなと思った。自分の住むマンションの備えは大丈夫か、自分の家はどうか。「鉄は熱いうちに打て」、保存用飲料水のペットボトルを買い足し、ローリングストックしなければ。防災井戸をきっかけに、いざという時の危機管理について思いを新たに作る取材だった。

サポーター紹介▶

## おすすめの体験記



「人生が変わるかも!？」お芝居と一緒に観ませんか  
～ねりま演劇を観る会の熱い思い～  
© 2023年7月25日



～練馬区唯一のシティホテル～地域に根差した「ホテルカデンツァ東京」の多彩な楽しみ方  
© 2023年10月10日



アニメだけじゃない! 資源豊かな練馬の映像文化をもっと楽しもう!  
© 2024年2月13日

シェアする

ツイートする



PDF形式のファイルを開くには、Adobe Acrobat Readerが必要です。お持ちでない方は、Adobe社から無償でダウンロードできます。

[Adobe Acrobat Readerダウンロード](#)

## シニアナビねりま

練馬区高齢社会対策課 いきがい係  
〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6-12-1  
03-5984-4763 (直通)

※受付時間：午前9時～午後5時（土日祝日、年末年始を除く）

## サイトマップ

[トップページ](#)

[イベント](#)

- ・ 今月のイベント
- ・ 来月のイベント

[サポーター体験記](#)

- ・ 体験記
- ・ サポーター紹介
- ・ OB・OG徒然記

[サークル・サービス団体](#)

- ・ サークル一覧
- ・ サービス団体一覧

## ボランティア情報

- ・ 募集中のボランティア
- ・ ボランティアについて調べる

## 地域から探す

- ・ 練馬地区
- ・ 石神井地区
- ・ 大泉地区
- ・ 光が丘地区

## ナビ通信

## お知らせ

## 各種お申込み

- ・ 新規団体申込
- ・ イベント掲載依頼
- ・ お知らせ掲載依頼
- ・ メールマガジン登録
- ・ ご意見・ご要望
- ・ バナー広告掲載について

## ご相談窓口

- ・ 各種相談窓口
- ・ シニアナビねりまについて
- ・ よくある質問
- ・ 老人クラブ情報
- ・ ご家族の方へ

## 個人情報について・免責事項